

厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）
分担研究報告書

分担課題：続発性反復流産についての検討

研究分担者 木村 正 大阪大学大学院医学系研究科産婦人科 教授
筒井 建紀 大阪大学大学院医学系研究科産婦人科 講師

研究要旨

過去に妊娠・分娩歴があるにもかかわらず、その後に流産を繰り返し、生児を得ることができない症例に対し、いかなる検査・治療を行うべきかについては明らかではない。我々は、1回以上の自然妊娠・分娩歴があるにもかかわらず、その前後に2回以上の自然流産を繰り返した反復流産患者6症例について、その背景、臨床検査結果、妊娠予後について検討した。うち3症例に抗リン脂質抗体やプロテインSの異常を認めたが、そのうち1症例は抗血小板療法にて妊娠・分娩に至った。また、以前認めた抗リン脂質抗体症候群を、現在は認めず、無治療で自然妊娠・分娩に至った症例も経験した。今回の検討により、反復流産・習慣流産の原因である thrombophilia の状態は、同一個体でも常に変動している可能性が示唆された。分娩歴のある女性でも、その後に反復流産を認めれば、thrombophilia に対する検索を行い、すみやかに対処することが必要と考えられた。

A. 研究目的

過去に妊娠・分娩歴があるにもかかわらず、その後に流産を繰り返し、生児を得ることができない症例に対し、どのような検査・治療を行うべきかについては明らかではない。今回我々は、続発性習慣流産患者の取り扱いを明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

2005年以降に大阪大学医学部附属病院不妊外来に受診歴があり、1回以上の自然妊娠・分娩歴があるにもかかわらず、その前後に2回以上の自然流産を繰り返した反復流産患者6症例について、その背景、臨床検査結果、妊娠予後について検討した。

C. 研究結果

自然妊娠・分娩歴のある反復流産患者6症例のうち、3症例に抗リン脂質抗体やプロテインSの異常を認めた。うち、1症例は、抗血小板療法にて妊娠・分娩に至った。また、以前指摘された抗リン脂質抗体症候群を、現在は全く認められず、無治療で妊娠・分娩に至った1症例も経験した。

D. 考察

症例数には限りがあるが、今回の検討により、性成熟期の女性において、流産の原因となりうる thrombophilia の状態は、同一個体においても常に変動し、流産になりやすい時期と生産をもたらす時期が、時間の経過とともに移り変わる可能性が示唆された。

E. 結論

習慣流産・反復流産の原因の一つに thrombophilia が挙げられる。thrombophilia の状態は、その他の自己免疫疾患と同様、常に変動していると考えられる。従って、以前 thrombophilia が認められた個体においてもその状態は常に変動しており、流産の起こりやすい時期と起こりにくい時期がある可能性が示唆された。これは、thrombophilia が原因と考えられる原発性習慣流産患者が無治療で生産に至ったり、生産歴のある女性が生産後 thrombophilia と考えられる流産を繰り返したりする現象の理論的裏付けとなる可能性を示唆するものである。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

Two multipotential transcription factors, NF-kappaB and Stat-3, play critical and hierarchal roles for implantation

Tadashi Kimura, Kazuhide Ogita, Keiichi Kumasawa, Shinsuke Koyama, Tateki Tsutsui, and Hitomi Nakamura
Indian J Physiol Pharmacol, 54, 27-32; 2010.

2. 学会発表

北村梨紗、筒井建紀、田畑知沙、熊澤恵一、渡辺宜信、根来英典、朝野久美子、張慶、李楠、荻田和秀、木村正
自然妊娠・分娩歴のある反復流産症例についての検討
第52回日本生殖医学会
平成19年10月25-26日

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

特になし

2. 実用新案登録

特になし

3. その他

特になし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>Tadashi</u> <u>Kimura</u> , et al	Two multipotential transcription factors, NF-kappaB and Stat-3, play critical and hierarchal roles for implantation	Indian J Physiol Pharmacol	54	27-32	2010